



園だより

第9号

令和3年2月26日
駿河台大学第一幼稚園
園長 田所 恒子

身体を動かすことを楽しむ幼児を育てる

暖かい日差しのもと、元気いっぱい遊ぶ子どもたちの声が、園庭に響いています。昼食が終わった年長組は、ピンクと青の帽子を被り、「赤広場に行ってきます！」と職員室に声を掛けて、ドッジボールに出かけていきます。修了まで残り少ない日々ですが、共に遊び、生活をしてきた仲間と力を合わせて戦う、クラス対抗のドッジボールはとても楽しいようです。「ただいま！」と戻ってきた子どもたちの顔は、満足げです。幼稚園生活の楽しい思い出となることでしょう。

さて、今年度、本園では、研究のテーマを「身体を動かすことを楽しむ幼児を育てる ―多様な動きに視点をあてて―」として園内研究会を進めてきました。心と身体が相互に影響し合いながら発達する幼児期において子どもたちが主体的に身体を動かして遊ぶことはとても重要です。幼児の運動能力低下は、かねてより全国的な課題でした。連休明けの6月、久しぶりに出会った子どもたちは、散歩に行つて転んだりすぐに疲れたと言ったりする姿が見られました。休園や自粛生活が本園の子どもたちにも大きく影響を与えていると考えて研究主題としました。

まず、子どもたちが主体的に身体を動かして遊ぶ姿を記録に取って、文部科学省『幼児期運動指針』の“36の動き”がどの様に含まれるかを分析しました。“36の動き”とは、幼児期に獲得しておきたい基本的な動きでまんべんなく体験させていくことが必要であるとされています。記録の中には、確かに“36の動き”がまんべんなく含まれていました。主体的に取り組み、楽しいと思える遊びの中で、子どもたちは育ちに必要な運動能力をはぐくんでいることを確信できました。そこで、さらに楽しい動きを引き出すような指導を考え、実践することにしました。2月には、実際に“36の動き”を引き出す指導をされている堀内亮輔先生に実際の指導と講演もしていただきました。

その結果、園内研究会を通して、身体を動かすことを楽しむ子どもを育てていこうという教職員の意識がとても高くなったと思います。

それは、修了対策委員会やいちょう会の皆様からいただく遊具を選択する折にも現れています。修了記念品は『縄跳び掛け』をいただきました。縄跳びは、できるようになるととても自信がつく遊びです。これまで箱に入れていましたが、『縄跳び掛け』にきちんと掛けておけば取り出しやすいので、より主体的に取り組み、縄跳びを楽しめるだろうという教職員の提案です。いちょう会の皆様からは、『相撲マット』『フープ掛け』をはじめとする遊具をいただきました。進級当初、新しい友達と相撲を取る中で友達と遊ぶ楽しさを味わい、気の合う友達を見つけていった子どもたちを見てきた教職員が、マットに土俵が描かれている『相撲マット』を是非と選んでいました。また、これまでフープは、倉庫の中に保管していましたが、『フープ掛け』を購入することにしました。園庭に置けば、子どもたちの目につきやすく、「やってみよう」と思った時にすぐに取り出して遊ぶことができるという意見が出たからです。身体を動かすことを楽しむ子どもを育てていくために、大切にに使わせていただきます。

結びとなりましたが、今年度は、特に新型コロナウイルス感染予防のため、保護者の皆様には、例年と異なる様々なご協力をいただきました。今年度が無事に終えようとしています、これもひとえに保護者の皆様のおかげと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



子どもたちは「お父さんと遊ぶ会」でドッジボールを楽しんだ頃よりもぐっとたくましくなりました。



教職員が工夫し、遊戯室に巧技台をはじめ様々な遊具をサーキット状に並べました。子どもたちは多様な動きを楽しみました。



堀内先生の楽しい指導。子どもたちから様々な身体の動きを引き出す指導を学びました。



堀内先生のご指導を受けたことをそれぞれのクラスで子どもたちと一緒に身体を動かして楽しみました。